

- ◆ 募集要項は、本学のホームページからダウンロード可能です
- ◆ 各教員の研究内容を本学のホームページでご覧になれます
- ◆ 修学・受験に関する相談は教員まで

領域別教員連絡先

領 域	分 野	教 員	電話番号	Eメールアドレス
看護基礎科学	病態機能学	研 究 科 長 ※ 太 田 克 矢	0265-81-5137	katsuyaota@nagano-nurs.ac.jp
	病態治療学	研 究 科 長		
基礎看護学	基礎看護学	伊 藤 祐 紀 子	0265-81-5158	yukiko.i@nagano-nurs.ac.jp
		田 中 広 美	0265-81-5162	tanaka.h@nagano-nurs.ac.jp
	国際・災害看護学	上 野 里 美	0265-81-5153	s_ueno@nagano-nurs.ac.jp
	看護管理学	渋 谷 美 香	0265-81-5152	mika.shibuya@nagano-nurs.ac.jp
		井 本 英 津 子	0265-81-5141	imoto@nagano-nurs.ac.jp
発達看護学	母性・助産看護学	古 川 亮 子	0265-81-5190	rfurukawa@nagano-nurs.ac.jp
		福 澤 利 江 子	0265-81-5159	fukuzawa-r@nagano-nurs.ac.jp
	小児看護学	○ 竹 内 幸 江	0265-81-5185	sachie@nagano-nurs.ac.jp
		高 橋 百 合 子	0265-81-5184	owaki-yuriko@nagano-nurs.ac.jp
	成人看護学	江 頭 有 夏	0265-81-5293	ymatsuz@nagano-nurs.ac.jp
		○ 牟 田 理 恵 子	0265-81-5151	rieko_muta@nagano-nurs.ac.jp
広域看護学	老年看護学	○ 千 葉 真 弓	0265-81-5175	mchiba@nagano-nurs.ac.jp
	精神看護学	○ 東 修	0265-81-5169	o-azuma@nagano-nurs.ac.jp
	地域・在宅看護学	安 田 貴 恵 子	0265-81-5192	kyasuda@nagano-nurs.ac.jp
		柄 澤 邦 江	0265-81-5138	kkarawasa@nagano-nurs.ac.jp
		御 子 柴 裕 子	0265-81-5191	mikoshiba@nagano-nurs.ac.jp
	里山・遠隔看護学	座 馬 耕 一 郎	0265-81-5133	zamma@nagano-nurs.ac.jp
		秋 山 剛	0265-81-5134	takeshiak@nagano-nurs.ac.jp
		吉 村 隆	0265-81-5135	yoshimura@nagano-nurs.ac.jp

CNSコースを希望する者は、○の教員へ連絡すること。 ※看護基礎科学領域については、渡辺みどり研究科長が対応します。

交通のご案内

自動車

□中央自動車道 駒ヶ根ICから約5分

JR飯田線

□駒ヶ根駅下車 徒歩約15分

□大田切駅下車 徒歩約10分

高速バス

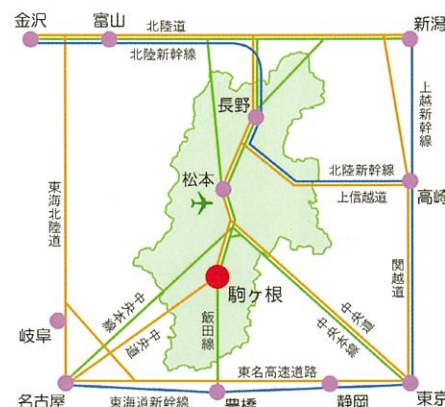
□新 宿ー駒ヶ根BT 3時間30分

□名古屋ー駒ヶ根BT 2時間40分

* 駒ヶ根BTから徒歩約15分

□長 野ー駒ヶ根IC 2時間20分

* 駒ヶ根ICからタクシーで約5分



令和8年度 入学者選抜案内

高度看護実践とアカデミズムへの挑戦

本学の大学院の特徴

1

2つのコースでのキャリアの積み上げ

博士前期課程では、「論文コース」と「CNSコース」の2コースを設置しています。

看護学の探究 (論文コース)

専門的に看護分野に特化した看護学を探究し、
研究的な目と姿勢を培うことを目指します。

専門看護師養成 (CNSコース)

これまでの看護経験を踏まえ、専門看護師(CNS)としてのキャリア形成を目指します。CNSコースは、老年看護CNS、小児看護CNS、精神看護CNS、そして2022年より、がん看護CNSがスタートし、4分野の教育課程があります。

2

多様な学び方をサポートするシステム

【ICTでのオンライン遠隔授業】【長期履修制度】

就労や介護、子育て等の事情を鑑み、大学院の授業プログラムは、夕方～夜間、週末など弾力的に運用されます。また地理的なことも配慮し、積極的にオンラインでの遠隔授業を行っています。さらに、長期履修制度で、2年分(3年分)の授業料で最長4年(6年)学ぶことができます。

3

看護海外研修

海外で行われている授業や演習、臨地実習などに参加し、教育方針や教育戦略などについて理解を深めます。

令和8年度 入学者選抜の募集人員・日程

試 験 名	博士前期課程試験	博士後期課程試験	追加募集	10月の試験で定員に達しない場合に行います。
出願期間	令和7年9月18日(木)～9月26日(金)		試験名	博士前期課程試験 博士後期課程試験
試験日	令和7年10月11日(土)		出願期間	令和8年1月5日(月)～1月13日(火)
試験科目	小論文・専門科目・面接	英語・口述試験	試験日	令和8年1月31日(土)
合格発表	令和7年10月16日(木)		試験科目	小論文・専門科目 英語・面接・口述試験
			合格発表	令和8年2月9日(月)

募集人員：前期課程16名、後期課程4名

専門学校・短期大学を卒業した方も、事前資格審査により出願できます。

博士前期(修士)課程

アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

1. 臨床現場の課題を探究し、専門的で質の高い看護実践者となることを目指す人
2. 基礎的研究能力を培い、看護学の探究を目指す人
3. 看護の専門性を基に他職種と協働し、地域の人々の健康への貢献を目指す人

ディプロマ・ポリシー(学位授与に関する方針)

論文 コース

1. 専門分野に関する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力
2. 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力
3. 研究課題に対応した研究プロセスの遂行に必要な能力
4. 高い倫理観をもって看護学研究に取り組む能力
5. 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力

CNS コース

1. 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力
2. 専門性を基盤として多職種と協働し、調整する能力
3. 看護対象者へのケアに関わる倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力
4. 研究のプロセスを踏んで看護実践の課題研究に取り組む能力
5. 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力

看護 基礎科学

看護基礎科学領域は、看護学の基礎科学領域として位置づけられる。人間を生物体という視点から捉え、その形態機能、生化学、病態およびその治療に関して、看護の技術や方法を開拓するための基礎研究を行う。具体的には病態機能学と病態治療学で構成される。

基礎 看護学

看護学の概念や理論、基礎看護技術、看護を展開する際の方法とシステム、その評価の開発などを主眼にした領域である。国内外に限定せず、どのような場所や地域や時間においても適用できる基礎看護学について探究する。具体的には、国際看護学・災害看護学を含む基礎看護学分野、看護管理学分野で構成される。

発達 看護学

発達看護学は、人間の発達過程に沿った看護学を開発を行う領域であり、母性・助産看護学、小児看護学、成人看護学の3分野で構成される。したがって、周産期にある母胎と胎児および各ライフステージにある女性、新生児・乳幼児・学童期・思春期からなる小児、青年期から壮年期からなる成人が対象になる。

広域 看護学

広域看護学は、老年看護学、精神看護学、地域・在宅看護学、里山・遠隔看護学で構成される。老年看護学分野では認知症を含むターミナル期の看とりに注目した研究を行っている。精神看護学分野では急性期看護やリエゾン看護に関心を向けている。地域・在宅看護学分野では、個人・家族・集団という多様な単位を対象とした看護の理論と方法について、自治体と連携した実践的学習も行っている。里山・遠隔看護学分野は、本学の地域的特徴に合わせて作られ、人間と自然の相互依存という観点から、人々の健康と援助方法を研究している。

博士後期課程

アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

1. 基礎的な研究能力を有し、人々の健康の保持・増進および生活の質の向上に関連した研究に自立して取り組む人
2. 専門分野で修得した高度な看護実践能力を国際的・学際的な視点から養い、理論的・実践的に発展させる人
3. 高度な研究能力や看護実践能力を看護実践の質の向上や人材の育成に役立てられる人

ディプロマ・ポリシー(学位授与に関する方針)

1. 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力
2. 国内外で学術的な交流をする能力
3. 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力
4. 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力

基礎 看護学

基礎看護学領域では、基礎看護学、看護管理学の2分野で構成される。看護に関する概念や理論が抽出された看護実践を支える科学・技術・理論について学修する。さらに、人々の生活の総体において機能する保健・医療・福祉について、国際看護学を含んだ看護の観点から学修する。基礎看護、看護管理、国際看護のどこに軸足を置くかは研究者の関心の度合いに委ねられるが、いずれの学修においても、両者の批判的検討を経て新たな展開を目指す研究を促す。

発達 看護学

発達看護学領域は、母性・助産看護学、小児看護学、成人看護学の3分野から構成される。生命の誕生から成人期までの成長・発達に関する看護学的課題や看護援助について、その方法の開発や向上の研究を行う。とくに、リプロダクティブ・ヘルス／ライツに基づいた女性の健康、子どもの人権の尊重と障害や病気を抱えた子どもとその家族の支援の在り方、成人期にある人々を対象とした看護方法支援を探究する。

広域 看護学

広域看護学は、老年看護学、精神看護学、地域・在宅看護学、里山・遠隔看護学で構成される。老年看護学分野では認知症を含むターミナル期の看とりに注目した研究を行っている。精神看護学分野では急性期看護やリエゾン看護に関心を向けている。地域・在宅看護学分野では、個人・家族・集団という多様な単位を対象とした看護の理論と方法について、自治体と連携した実践的学習も行っている。里山・遠隔看護学分野は、本学の地域的特徴に合わせて作られ、人間と自然の相互依存という観点から、人々の健康と援助方法を研究している。